

2024（令和6）年度

山口大学大学院人文科学研究科（修士課程）

学 生 募 集 要 項

◇ ◇ ◇ 目 次 ◇ ◇ ◇

I 人文科学研究科案内

1 概 要	-----	1
2 山口大学大学院研究科アドミッションポリシー	-----	2
3 人文科学研究科アドミッションポリシー	-----	2
4 教 員 紹 介	-----	3

II 学 生 募 集 要 項

第1 募 集 人 員	-----	8
第2 出 願 資 格	-----	8
第3 出 願 手 続	-----	9
第4 選 抜 方 法 等	-----	12
第5 学力検査等の日時及び試験場	-----	12
第6 合 格 発 表	-----	12
第7 入 学 手 続	-----	13
第8 入学手続時に要する経費	-----	13
第9 追 加 合 格	-----	13
第10 欠員補充第2次募集	-----	13
第11 学生募集要項の請求方法	-----	14

○ 出 願 書 類 等

入学志願票・受験票・写真票
研究計画書
受験承諾書
教育方法の特例措置希望調書
払込取扱票

I 人文科学研究科案内

1 概 要

山口大学大学院人文科学研究科は、人文科学全域を広い視野にいれながら、同時に個別部門の精緻な研究を試み、社会各方面の要請に応えようと教育・研究活動を推進し、山口大学の理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を、もっともよく体現しようと努めています。

我々の研究科は、人間と文化を対象として、文系基礎学を探究・構築する場です。人間文化の根本原理を探求し、その多様な展開について、各専門分野において深く解明する人を養成することを目指しています。

我々の研究科の人文科学専攻は、思想研究コース、歴史研究コース、現代社会研究コース、日本・中国言語文学研究コース、欧米言語文学研究コースで構成され、世界・日本諸地域の人間文化の固有性と普遍性を同時に探究します。そして、文化・社会の具体相を分析し論証する能力や、言語の特質と文学の諸相を歴史的・社会的に分析し、解明する能力を養成し、高度専門職業人として社会に貢献する人材を育てます。

我々の研究科は、人文科学諸専門の豊かな領域を持っています。そのなかで、一人一人が自分をとおして主体的に考え理解することを大切にしています。少人数で対話的な授業を重視していますので、清新で意欲に溢れる皆さんの入学に期待します。

2 山口大学大学院研究科アドミッションポリシー

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念に、地域の基幹総合大学及び世界に開かれた教育研究機関として、たゆまぬ研究及び社会活動並びにそれらの成果に立脚した教育を実践し、地域に生き、世界に羽ばたく人材の育成に努めます。

そのために、次のような学生の入学を求めています。

● 求める学生像

- 高度な理論的・実践的研究を遂行するために必要な知識・技能及び意欲をもつ人
- 研究成果を実践の場で応用・展開できる人
- 豊かな人間性と高度な倫理性，社会性を備えた人

● 入学者選抜の基本方針

山口大学の教育理念及び各研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、山口大学大学院の教育を受けるにふさわしい能力・適性などを備えた入学者を受け入れるために、各研究科が求める能力・適性などを多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜します。

人文科学研究科入試で重視するポイント

◎：強く重視して評価する ○：強く評価する

人文科学研究科 修士課程	選抜内容	高度な理論的・実践的研究を遂行するために必要な知識・技能	研究成果を実践の場で応用・展開できる能力	豊かな人間性と高度な倫理性，社会性を兼備
	筆記試験	◎		
	口述試験	◎	○	○

3 人文科学研究科アドミッションポリシー

● 人文科学研究科の理念・目標

人文科学研究科は、人文科学全域を広い視野にいれながら、専攻分野の研究をさらに深化させ、高度専門職業人を育てることに努めます。そのために、人間文化の根本原理を探求し、その多様な展開について、思想、歴史、現代社会、日本・中国言語文学、欧米言語文学の各分野において深く解明する人を育成します。

● 求める大学院生像

《人文科学専攻》

- ① 専攻する学問分野について、学士課程修了相当の知識を有している人
- ② 世界諸地域の人間文化の固有性と普遍性の探究をさらに深めたいと考える人
- ③ 思想、歴史、現代社会、文学、言語の各分野について幅広い視点から深く洞察し、これを論理的に展開したいと考える人
- ④ 自らの研究テーマについて、口頭や文章によつて的確に表現できる人
- ⑤ 修得した高度な知識・分析力・判断力及び研究成果により、高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人

4 教 員 紹 介

【人文科学専攻】

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介
思 想 研 究 コ ー ス	西 洋 哲 学	教 授 脇 條 靖 弘	古代ギリシア哲学の主要な文献を内的な文脈や当時の思想的背景などを考慮しながら検討し、そこに表明されている主張をありのままに理解すると同時に、それが現代の我々に対して持つ意義を評価する。
		准教授 横 田 蔵 人	主として西洋の倫理学およびキリスト教思想に関する文献講読を行い、テキストの歴史的な文脈を踏まえた正確な読解を目指すと同時に、読解されたテキストに見られる思想の現代の諸問題との連関、呼応可能性を検討する。
	東 洋 思 想 史	教 授 柏 木 寧 子	主として古代・中世日本思想史上の基本的文献を読み解きつつ、人とは何か、人の生の拠りどころは何か、といった問いをめぐる倫理的思索の実態を探究する。
		准教授 栗 原 剛	主として近世日本思想史上の基本的文献を読み解き、そこに跡づけられた人々の希求や思索がもつ意味を、普遍的な倫理につながり得るものとして主体的に考究する。
		講 師 伊 藤 裕 水	主として中国思想に関する古典文献を読み解き、中国的思惟がどのように行われて、その考え方がどのように変遷し、それぞれの思想がどのように位置づけられるのかを、文献を通して考える。
	美 学 ・ 美 術 史	教 授 藤 川 哲	美術史研究における古典的著作から、ニュー・アート・ヒストリーまでの代表的論文の講読によって、それらの研究者の視点および方法論を紹介し、考察する。
		准教授 村 上 龍	主として文献の講読をつうじ、西洋美学上の思想史研究と現代美学上の様々な思潮の検討を行う。前者については今日的な視点に立つ批判的アプローチを、後者については同時代的な議論への合理的応答を、それぞれ目指す。
		宗 教 学	教 授 Alam, Djumali

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介
歴 史 研 究 コ ー ス	日 本 史	教 授 真 木 隆 行	日本中世の宗教権力に関する分析を通じて、中世の国家や社会をめぐる諸問題を総体として捉え直す。
		准教授 池 田 勇 太	日本近代、特に明治維新时期を中心に、政治・思想・社会構造等を総合的に検討し、近現代史についての問いを深化させる。
		准教授 石 田 俊	日本近世国家の形成・展開過程について、幕府・大名・朝廷などの史料を用いて多面的に検討し、その構造や特質を明らかにする。
		講 師 黒 羽 亮 太	日本古代国家の展開過程とその特質について、政治制度・財政政策・儀礼祭祀など様々な角度から検討するとともに、広くユーラシア東方の動向を押さえながら、その文明史的意義を探求する。
	西 洋 史	教 授 竹 中 幸 史	西洋近現代、特に18・19世紀史を扱う。専門はフランス革命およびナポレオンであるが、授業では政治・経済・文化の領域におけるヨーロッパとアメリカ大陸との関係、アメリカ史における「記憶」、そして大衆社会・大衆文化などをとりあげ、近代的な政治空間の生成と展開を考察する。
		准教授 南 雲 泰 輔	西洋古代・中世史、特に後期ローマ帝国史・初期ビザンツ帝国史について、政治・行政・社会・文化などさまざまな側面を視野に含めつつ考察し、古代・中世における地中海世界の多角的理解を目指す。
	考 古 学	准教授 村 田 裕 一	日本列島の弥生社会における生産および流通システムの成立と変容を、考古資料から具体的に捉えることで、日本農耕社会の形成過程を技術発達史・経済史的側面から解明する。
		講 師 鈴 木 舞	古代中国、とくに殷周時代における国家・社会のあり方について、主に、青銅器を始めとする考古資料を用いて考察する。

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介
現 代 社 会 研 究 コ ー ス	現代社会学	教授 速水 聖子	少子高齢化やグローバルゼーションといった大きな社会変動下において、現代日本の地域社会が抱える諸問題と今後の課題について地域社会学ならびに福祉社会学の観点から理論的実証的に研究する。
	社会心理学	教授 高橋 征仁	近年、ヒトの心にも進化の遺構が刻み込まれており、遺伝的な多様性が存在することが明らかになった。こうした進化的なアプローチにもとづいて、ヒトの柔軟さや複雑性、戦略性を理解し、個人と社会の相互構成のあり方を問う。
		准教授 桑畑 洋一郎	主に病や障害の当事者への調査を行いながら、そうした当事者が社会的にどのような不利益を被っているのか、特定の病・障害が不利益を導くのはなぜなのか、社会病理学や医療社会学的な立場から明らかにしようとしている。
	民俗学・文化人類学	教授 谷部 真吾	民俗学・文化人類学的な視点から、日本の祭りの変化を研究している。具体的には、静岡県西部地方(掛川市、磐田市、森町)や富山県高岡市の祭りを事例として、それらの祭りの、主に近現代における変容過程を分析することで、日本文化・日本社会の特徴を明らかにしたいと考えている。
		准教授 山口 睦	近代日本社会の贈与交換を基礎として、度重なる災害への支援活動を贈与論の立場から研究している。災害支援だけでなく社会的弱者への支援が活発化する現代社会において、人々はどのように関わらうのか、モノと人との関係性に着目して研究していく。
		准教授 小林 宏至	中国福建省の客家社会を主たる対象として、文化人類学的な視点から親族、民間建築、文化表象の問題を研究している。具体的には父系出自集団における世代ランクと名前、土楼建築と親族組織の相関性、華僑社会へと土楼を介して広がる文化表象などである。

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介	
日 本 ・ 中 国 言 語 文 学 研 究 コ ー ス	日 本 語 学	教 授 和 田 学	生成文法理論に基づいた日本語と韓国語との比較研究を実践している。受動，使役，句構造を主な対象としている。	
		准教授 安 本 真 弓	古代日本語形容詞の文法的な特質について，動詞などの他品詞や現代語と比較することにより研究している。文献を使用し言語変化のあり様を明らかにする方法をさまざまな具体例をもとに検討したい。	
	日 本 文 学	日 本	教 授 森 野 正 弘	平安文学作品の読解を行う。古典というテキストを読解することの今日的な意義を念頭に置きつつ，本文を読むという行為の中から誘発されてくる諸問題について検討を加える。
			教 授 野 坂 昭 雄	日本近代文学，特に近代詩の歴史的展開を主な研究内容とする。中でも，昭和初期の抒情詩やロマン主義の運動について，モダニズム，メディア，ナショナリズムといった観点から再検討することを試みる。
			准教授 尾 崎 千 佳	近世文学諸作品の読解および文学史的な位置付けを目指し，そのためのアプローチ法について講述する。記録・書簡等の周辺資料へも目配りしつつ，演習を通して，文献収集の方法・文献解読の技術・書誌的基礎知識の習得を指導する。
			講 師 中 元 さおり	日本近代文学の小説作品についての分析をおこなう。特に，作品が発表された同時代の文化的・歴史的背景などを視野に入れた幅広い問題意識のもとに文学テキストを考察する。
	中国語学	准教授 更 科 慎 一	元明代に作られた漢語と他の言語との対訳文献を資料として，近世漢語音韻史や官話成立史などの問題を考察するとともに，当時の東アジア世界の言語接触のありさまに触れる。	
	中国文学	教 授 根ヶ山 徹	中国近世の戯曲作品を対象として，当時の演劇界との関わりに留意しながら検討し，併せて戯曲演劇史上の位置づけについて考察する。	

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介
欧 米 言 語 文 学 研 究 コ ー ス	英 語 学	教 授 上 田 由 紀 子	生成文法理論のミニマリスト・プログラムの枠組みに基づいた比較統語論研究を行う。対象言語は主に英語、日本語を扱うが、他の言語との比較も歓迎する。
	英 文 学	教 授 池 園 宏	19世紀から現代に至るまでの英国小説を読み解く。作品中に具現化された多様な人間像や社会像、小説家の中心思想等について考察し、その歴史的意義や現代的意義を吟味する。
		教 授 外 山 健 二	アメリカ小説およびアメリカ文学史を中心に、文学理論や文化研究、英語文学等を視野に入れ、各時代の作家・作品研究や21世紀アメリカ文学の方向性を追究する。
		講 師 Kateryna, Olha	グローバルな社会で重要なテーマを表現する文学作品を読み、その歴史的・文化的背景を明らかにする。又は比較文化論の代表的な論文の講読によって、アイデンティティ、ジェンダー、宗教、言語、認識等のテーマを中心にし、文化の中の「人間」について検討する。
	ヨ ー ロ ッ パ 語 学 ・ 比 較 言 語 学	教 授 武 本 雅 嗣	フランス語さらにはロマンス語を様々な角度から分析し、その特徴を明らかにしていく。とくに比較言語・対照言語学・認知言語学の観点から言語間の共通点と相違点について論じる。
		准教授 下 寄 正 利	ドイツ語という言語を比較言語学及び歴史言語学的な観点から眺めていく。古い時代のテキストの講読も併せて行う。
	・ 比 較 文 学	ヨ ー ロ ッ パ 文 学	教 授 De Boissieu, Michel
言 語 学	准教授 乾 秀 行	言語類型論的観点にたつて、言語の持つ豊かな多様性と人類言語に潜在する一般的特性を探究することによりエネルギーとしての言語の実体に迫ることを目的とする。	

Ⅱ 学 生 募 集 要 項

第1 募 集 人 員

専 攻	募集人員
人 文 科 学 専 攻	8 名
計	8 名

第2 出 願 資 格

- 1 大学を卒業した者及び令和6年3月に卒業見込みの者
- 2 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により、学士の学位を授与された者及び令和6年3月までに学士の学位を授与される見込みの者
- 3 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
- 4 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
- 5 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされたものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
- 6 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和6年3月までに授与される見込みの者
- 7 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
- 8 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- 9 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- 10 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6年3月31日までに22歳に達している者
- 11 上記1～10の規定にかかわらず、次の(1)～(4)のいずれかに該当する者であって、本研究科の定める単位を優秀な成績で修得したと認める者
 - (1) 大学に3年以上在学した者
 - (2) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

- 〈注〉 1 外国人の場合は、出願日より過去5年以内に実施された独立行政法人国際交流基金及び公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する「日本語能力試験」を受験し、**N1の認定**を受けている者とする。
- 2 出願資格の9～11((4)を除く。)に該当する者は、事前に出願資格の審査を行う必要があるため、令和5年7月7日(金)までに人文学部学務係に問い合わせてください。

第3 出願手続

1 出願期間

令和5年10月2日(月)～10月6日(金) (必着)

- (1) 受付時間は、9時から17時までとします。
- (2) 郵送の場合は、令和5年10月6日(金)までに必ず届くよう、郵送期間を十分考慮のうえ発送してください。出願書類は、「特定記録郵便速達」で発送してください。

また、郵便局の窓口では、「特定記録郵便物受領証」を必ず受領して、大切に保管しておいてください。

※ 「特定記録郵便物受領証」の番号を使用して日本郵便のホームページ上で、郵送の状況が確認できます。

2 出願書類等

入学志願票 受験票 写真票	本研究科所定の用紙(本募集要項とじ込み)に、必要事項を記入してください。 なお、写真票の所定欄に、写真(4cm×3cm、出願前3か月以内に撮影した上半身・無帽・正面向き)をはってください。
卒業(見込)証明書 又は 学位授与証明書 若しくは 修了(見込)証明書	出身大学(学部)長が作成したものを提出してください。 ただし、本学人文学部出身者は不要です。 独立行政法人大学評価・学位授与機構が発行したものを提出してください。 なお、申請中の場合は、学位授与申請(予定)証明書(様式任意)を提出してください。 出身学校長が作成したものを提出してください。
成績証明書 又は 単位修得証明書	出身大学(学部)長又は学校長が作成し、厳封したものを提出してください。 ただし、本学人文学部出身者は不要です。
研究計画書	本研究科所定の用紙(本募集要項とじ込み)に、詳細に記入してください。
卒業論文 又は 研究レポート	卒業論文(写し可)又は研究レポートを提出してください。 研究レポートの枚数は、400字詰め原稿用紙に換算して10～20枚程度です。 ただし、図表・資料等は枚数に含めません。
検定料	30,000円 本研究科所定の用紙(本募集要項とじ込み)に、必要事項を記入のうえ最寄りの郵便局で山口大学指定の口座へ払い込んだ後、郵便局から受け取った振替払込受付証明書(お客さま用)を、志願票裏面の所定欄にはり付けてください。 なお、出願書類を受領した後は、 5 検定料の返還について の検定料を返還請求できる場合を除き、いかなる理由があっても払込済の検定料は返還しません。

受験承諾書	官公庁・会社等に在職している者で、現職のまま本研究科に入学しようとする者は、その長又は代表者の受験及び通学についての承諾書(本研究科所定の様式(本募集要項とじ込み))を提出してください。
教育方法の特例措置希望調書	特例措置希望者は、本研究科所定の用紙(本募集要項とじ込み)に、必要事項を記入してください。
日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書	外国人のみ提出してください。 ただし、出願日より過去5年以内に実施された試験に限ります。

<注> 外国語で作成された書類には、日本語訳を必ず添付してください。

<注> 卒業論文(写し可)又は研究レポートは、A4用紙に印刷したものを提出してください。

3 出願方法

入学志願者は、出願書類等を一括して、**人文学部学務係**に提出してください。郵送する場合は、**特定記録郵便速達**としてください。

なお、出願の際は、封筒の表に「人文科学研究科出願書類等在中」と朱書きし、封筒の裏側に差出人の郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記してください。

4 提出先

〒753-8540 山口市吉田1677-1
 山口大学 人文学部 学務係
 TEL:083-933-5209, FAX:083-933-5214
 E-mail:hc134@yamaguchi-u.ac.jp

5 検定料の返還について

ア 次に該当した場合は納付済の検定料を返還します。

- ① 検定料を納付済であるが山口大学に出願しなかった場合
- ② 検定料を誤って二重に納付した場合又は誤って所定の金額より多く納付した場合
(この場合の返還額は、納入済の金額から9ページの **2 出願書類等** に定める検定料を控除した金額となります。)
- ③ 出願書類等を提出したが受理されなかった場合

イ 返還請求の方法

上記①又は②に該当した場合は、下記の問い合わせ先に連絡してください。連絡があった後に「検定料払戻請求書」用紙を送付しますので、必要事項を記入のうえ郵送してください。

また、上記③の場合は、出願書類等返却の際に「検定料払戻請求書」用紙を同封しますので、必要事項を記入のうえ下記の問い合わせ先へ郵送してください。

検定料返還に関する問い合わせ先

〒753-8511 山口市吉田1677-1
 山口大学財務部財務課出納係
 TEL:083-933-5098

※ 財務部財務課出納係では、検定料返還に関する問い合わせのみを受け付けます。
 入学試験に関することは、人文学部学務係へ直接問い合わせてください。

6 個人情報の利用について

本選抜において出願の際に提出いただいた出願書類等で得た個人情報は、本学の入学者選抜に係る業務のほか下記の業務に利用します。なお、個人情報の保護に関する法律第18条第3項各号及び第27条第1項各号に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

- (1) 合格者の受験番号、住所及び氏名等の個人情報を、入学手続きに関わる業務に利用します。
- (2) 入学手続き者の受験番号、氏名、性別、生年月日、出身大学等の個人情報を学籍管理等の修学指導に関わる業務及び健康診断等の保健管理に関わる業務並びに厚生補導に関わる業務に利用します。
- (3) 入学者選抜で取得した入学手続き者に関わる成績等の個人情報を、入学料免除、入学料徴収猶予、第1年次における授業料免除及び奨学生採用等の経済支援に関わる業務に利用します。
- (4) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を、統計処理業務及び本研究科における入学者選抜方法の改善に関わる調査・研究に利用します。

7 出願にあたっての注意事項

- (1) 出願書類に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (2) 出願書類等に記載事項の記入もれや誤記がある場合は、受理しないことがあります。
- (3) いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。また、出願事項の変更も認めません。
- (4) 身体に障がい等のある入学志願者で、受験上及び修学上特別な配慮を希望する者は、電話、FAX又はE-mailなどにより連絡のうえ相談書(様式は特に定めません。)を令和5年9月1日(金)までに人文学部学務係に提出してください。
なお、必要な場合は入学志願者等との面談を行うことがあります。
- (5) 出願に関して問い合わせをする場合は、**人文学部学務係**に照会してください。

8 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例について

大学院設置基準第14条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は期間において授業または研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる」旨規定されています。

これを踏まえ、人文科学研究科においては、大学院での履修を希望する社会人研究者、教育者等に対して大学院設置基準第14条に定める教育方法による教育を実施することとします。

9 教育方法の特例の概要

- (1) 修業年限2年間のうち、2年次の1年間に適用します。
- (2) 修了要件単位数30単位のうち、特例により2～6単位を修得できるものとします。
- (3) 特例に係る授業の時間帯は、月曜日から金曜日までの11・12時限(17時50分～19時20分)とし、必要に応じて、授業を開講します。また、個々の事情によっては、夏季休業中等に教育を行うことがあります。
- (4) 研究及び履修計画は、希望指導教員と協議のうえ決定してください。
なお、勤務の都合上、2年間で修了することが困難な場合は、あらかじめ2年間を超える研究及び履修計画を設定してください。

10 教育方法の特例を希望する者の手続

出願に際して、本募集要項の出願書類に加えて「令和6年度山口大学大学院人文科学研究科(修士課程)教育方法の特例措置希望調書(本募集要項とじ込み)」を提出してください。

第4 選抜方法等

入学者の選抜は、出願書類及び学力検査等の結果により審査します。

学力検査等

(1) 筆記試験

ア 専門科目

志望する研究コースに関する科目を課します。

なお、専門の研究に外国語を必要とする場合、その言語を問題の一部に含めて課することがあります。

イ 小論文

特定の専門分野に偏った問題ではなく、より一般的・教養的な内容の問題を課します。

(2) 口述試験

志望する研究コースに関し、基礎的学力、志望理由等を問います。

第5 学力検査等の日時及び試験場

日	時	学力検査等		試験場
令和5年11月8日(水)	9時30分～11時30分	筆記試験	専門科目	山口大学人文学部
	13時00分～15時00分		小論文	
	15時30分～	口述試験		

(備考) 学力検査当日は、9時00分までに人文学部学務係で受付を行ってください。

第6 合格発表

合格者の発表は、次の日時に山口大学人文学部において合格者の受験番号を掲示します。

令和5年11月22日(水) 10時 (予定)

- 〈注〉
- 1 合格者には合格通知書及び入学手続書類(「入学の手引」等)を郵送します。
 - 2 1の書類等は、合格発表日に「簡易書留速達」扱いで発送します。到着まで数日かかる場合がありますがご了承ください。
 - 3 合・否の問い合わせには応じません。掲示で確認してください。
 - 4 山口大学人文学部ホームページに合格者の受験番号を掲載します。(10時00分頃)
なお、ホームページに掲載する合格者情報は、情報提供サービスの一環として行うもので、合格者には合格通知書をもって正式に通知します。

山口大学人文学部ホームページURL

<http://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/>

第7 入学手続

合格者は、次の期間内に所定の入学手続を行ってください。

令和5年11月30日(木)～12月1日(金) (必着)

- (1) 受付時間は、9時から17時までとします。
- (2) 郵送の場合は、令和5年12月1日(金)17時**必着**とします。
なお、所定の期日までに入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものとして取り扱います。

第8 入学手続時に要する経費

1 入学料及び授業料

入学料(入学手続時に納付)	282,000円	(予定額)
授業料(入学後に納付)	前期分 267,900円	(予定額)
	後期分 267,900円	(予定額)

- 〈注〉
- 1 本募集要項公表後、令和6年度入学者に係る入学料、授業料の改定を本学として決定した場合は、改定後の額となります。また、既に納入されていた場合は、改定額との差額を納入していただくこととなります。
 - 2 既納の入学料はいかなる理由があっても返還しません。
 - 3 在学中の授業料の納付は、入学手続時に郵便局・ゆうちょ銀行へ提出する自動払込利用申込書(入学手続書類とともに郵送します。)に基づき、前期分は5月末日、後期分は11月末日(末日が土・日曜の場合は、その前の平日)にゆうちょ銀行の学生(又は学資負担者)名義の口座から自動的に引き落とし大学に納付することとなります。引落日の前日までに必ず入金しておいてください。
 - 4 入学料及び授業料について納付を免除する制度があります。入学料の免除及び徴収猶予並びに授業料の免除の詳細については、学生支援部学生支援課学生サービス係(TEL:083-933-5611)に必ず問い合わせてください。
 - 5 授業料は、在学中に授業料改定を行った場合、新授業料を適用します。

2 諸経費(令和5年度現在)

学生健康保険組合費	5,000円(2年間)
学生教育研究災害傷害保険料	1,750円(2年間)
人文学部後援会会費	10,500円(2年間+入会金1,000円)
鴻文会会費(人文学部・人文科学研究科同窓会)	10,000円(終身会費)(本学人文学部出身者は不要)

第9 追加合格

入学手続完了者が入学定員に満たない場合には、追加合格を行うことがあります。

追加合格を行う場合の入学意思の確認は、令和5年12月4日(月)～12月5日(火)に入学志願票の「現住所」欄に記入された電話番号に連絡し行います。

第10 欠員補充第2次募集

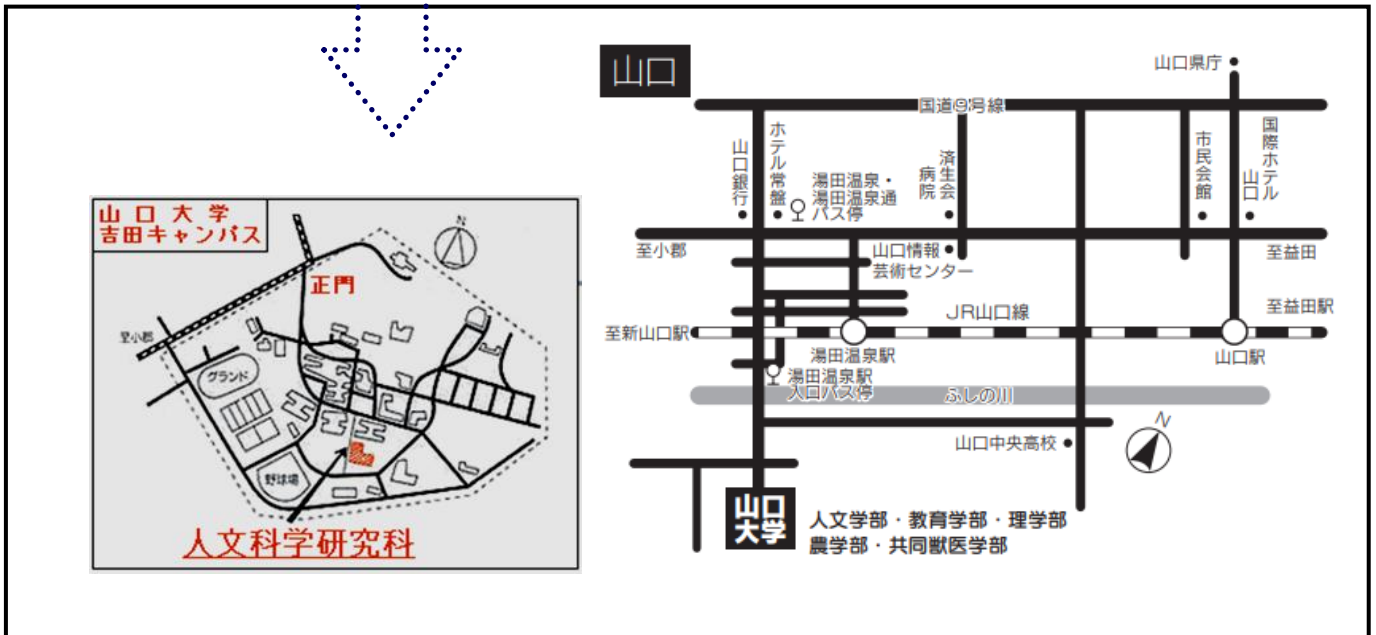
入学手続完了者が入学定員に満たない場合には、欠員補充第2次募集を行うことがあります。
この場合、学生募集要項は、合格発表後に公表します。

第11 学生募集要項の請求方法

学生募集要項の請求は、「人文科学研究科学生募集要項請求」と封筒の表に朱書し、郵便番号・住所・氏名を明記した返信用封筒(角形2号：33cm×24cm)に郵便切手250円をはったものを同封のうえ**人文学部学務係**に請求してください。

なお、請求の際は、封筒の裏側に差出人の郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記してください。

《山口大学大学院人文科学研究科交通案内》



山口大学吉田キャンパス / 山口市吉田1677-1

- JR新山口駅からJR山口線「湯田温泉駅」下車。
JR湯田温泉駅入口バス停からJRバス山口大学行「山口大学」下車。
- JR新山口駅北口(在来線口)から防長バス「県庁前(平川経由)」行「山口大学前」下車。
- JR新山口駅から車で約30分。
- 湯田温泉スマートインターチェンジから車で11分。

山口大学大学院人文科学研究科

〔お問い合わせ先〕

山口大学人文学部学務係

〒753-8540 山口市吉田1677-1

TEL:083-933-5209, FAX:083-933-5214

E-mail:hc134@yamaguchi-u.ac.jp